



Title	がん患者の認知的適応過程におけるポジティブな変化
Author(s)	塩崎, 麻里子
Citation	生老病死の行動科学. 2004, 9, p. 57-65
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/9670
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

がん患者の認知的適応過程におけるポジティブな変化

(大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程) 塩崎 麻里子

Abstract

From the moment of the diagnosis, cancer patients experience many negative states of mind, such as disappointment, isolation, alienation, despair, and depression. Moreover, even when they recover, it is stressful to live with the fear of cancer recurrence. Therefore, many researches have focused on improving negative aspects, such as depression, anxiety and dysfunction. On the other hand, it is reported that some patients show psychological adaptation equivalent to or better than healthy people even if they experience cancer. Recently, research which treats positive changes of cancer patients with a patient's cognitive adaptation began to be conducted. In this paper, studies focusing on the positive changes of cancer patients were reviewed. These studies have emphasized that it is important that both negative and positive aspects should be investigated. Research that focuses solely on the detection of distress and its correlates may produce the incomplete and potentially misleading picture of cancer. The further research is essential.

key words : cancer patients, cognitive adaptation, process of adaptation, positive change

I はじめに

がん患者は診断がついた瞬間から、落胆、孤立感、疎外感、絶望、抑うつなどの多くのネガティブな心理状態を経験する(岡村, 2003)。また、治癒した場合でも、がんが再発する不安と共に生きることは多くの患者にとってストレスフルであり(Moyer & Salovey, 1996; Spiegel, 1997)、精神的疾患を抱える者もいる(Andrykowski, Cordova, Studts, & Miller, 1998)。そのため、がん患者を対象とした多くの研究では、がん患者の抑うつや不安、機能不全といったネガティブな側面を改善することに焦点が当てられてきた(Andrykowski, Brady, & Hunt, 1993)。しかしその一方でがんを経験しても、罹患した経験のない健康な人と比べて同等、あるいはそれ以上の適応を示す患者が存在し(Andrykowski et al., 1993; Tempelaar, De Haes, De Ruiter, Bekker, Van Den Heuvel & Van Nieuwenhuijzen, 1989)、さらに以前よりもポジティブな変化を経験した患者がいることが報告されている(Andrykowski et al., 1993; Carpenter, Brockopp, & Andrykowski, 1999; Taylor, 2000)。近年、このようなポジティブな変化を、患者のがんに対する認知的適応の過程であると捉えた研究がなされるようになった。そこでは、有益性の発見(benefit finding; McMillen & Fisher, 1998)、肯定的再評価(positive reappraisal coping; Folkman, 1997)、心的外傷後の成長(posttraumatic growth; PTG; Tedeschi & Calhoun, 1995, 1996)、ストレス関連の成長(stress-related growth; SRG; Park, Cohen, & Murch, 1996)といった概念を用いた説明が試みられている。そして、患者が危機的な状況に適応する過程で生じたポジティブな認知的変化は、患者が慢性疾患に対して前向きな気持ちを持ち続けることや(Folkman & Moskowitz, 2000)、ネガティブな気持ちを緩和させること(Folkman & Moskowitz, 2003)に効果があることが示されている。がんは急激な治癒率の向上や長期生存者の増加に伴い慢性疾患といわれるまでになった。今後、がん患者やがん経験者のポジティブな変化に注目することは、彼らが適応的な生活を送るにあっ

て重要であろう。本論では、ネガティブな出来事を経験した後に生じるポジティブな変化についての概念的整理を行った後、がん患者に生じたポジティブな変化について着目した研究を概観することとした。

II ネガティブな出来事を経験した後に生じるポジティブな変化

人がネガティブな出来事を経験し、強いショックやストレスを引き起こす過度の情動体験をしたとき、それが精神的に適切に処理されないまま抑圧されコンプレックスとなって神経症的症状が形成されることを心的外傷 (trauma) という (Linley & Joseph, 2004)。具体的な出来事として、がんの診断 (e.g., Collins, Taylor, & Skokan, 1990; Taylor, Wood, & Lichtman, 1983)、子どもに対する性的虐待、火事による家の喪失、海上での遭難 (Joseph, Williams, & Yule, 1993)、深刻な障害をもった子どもの誕生 (Affleck, Tennen & Gershman, 1985)、重篤な疾病の苦痛 (e.g., Thompson, 1975)、愛する人の死 (e.g., Calhoun & Tedeschi, 1989; Lehman, Davis, DeLongis, Wortman, Bluck, Mandel., & Ellard, 1993)、性的暴行、レイプ (e.g., Burt & Katz, 1987; Veronen & Kilpatrick, 1983)、骨髄移植 (e.g., Andrykowski, Cordova, Studts., & Miller, 1998)、軍の戦闘や捕虜 (e.g., Sledge, Boydstun, & Rabe, 1980)、成人の身体的機能低下、離婚 (e.g., Wallerstein, 1986)、心臓発作 (e.g., Affleck, Tennen, Croog, & Levine, 1987)、近親相姦 (e.g., Silver, Boon, & Stones, 1983)、HIV への感染 (e.g., Schwartzberg, 1994) などが挙げられる。

このようなネガティブな出来事を経験し自らのトラウマに対処しようと努力した人々が、何らかのポジティブな変化を得るという現象は、古代から我々のごく身近に存在するものであった。例えば、古代のギリシャ人、ヘブライ人、初期のキリスト教徒の発想や文書、また仏教やヒンドゥー教、イスラム教の教えにも、苦難から良いことが生まれる可能性について言及されている (Calhoun & Tedeschi, 1998)。この現象について次に着目したのは、Frankl (1961)、Fromm (1947)、Caplan (1964)、Dohrenwend (1978)、Yalom (1980) のような社会学者と臨床家であり、彼らによって、人生の重大な問題によってもたらされたポジティブな変化のさまざまな可能性について議論されてきた。

しかし、このような現象が、有益性の発見、肯定的再評価、PTG、SRG と定義され、この現象を理解するための系統的な試みがなされたのは、ごく近年になってからであった (O'Leary & Ickovics, 1995; Tedeschi, Park, & Calhoun, 1998)。これらの概念は大きく2つに分けることができる。一つ目は、ポジティブな変化をネガティブな出来事に適応するための対処過程であると捉えたもので、有益性の発見や肯定的再評価がこれにあたる。二つ目は、ポジティブな変化をネガティブな出来事について苦しんだ後に個人が得たポジティブな結果であると捉えたもので、PTG や SRG がこれにあたる。ポジティブな変化の具体的な内容は、認知的適応理論 (Taylor, 1983)、危機モデル (Caplan, 1964)、ストレスコーピング理論 (Lazarus & Folkman, 1984) などによる枠組みを得て、インタビューによる質的なデータを基に言及されてきた。その代表的なものが、Tedeschi & Calhoun (1996) の提唱した PTG の3つのカテゴリーである人間関係の変化、自己観の変化、人生哲学の変化であり、Shaefer & Moos (1992) の提唱した SRG の3つのタイプである社会資源が広がること、個人的資源が広がること、新たなコーピングスキルを獲得することである。

Ⅲ がん患者にみられるポジティブな変化

1. がん患者にみられるポジティブな変化の内容

がん患者によって報告された共通のポジティブな変化は、より強くなったと感じたことと、自己に自信をもつことであった (Collins et al., 1990)。また、何らかのポジティブな変化を経験する患者の割合は、各研究でばらつきはあるが概ね 60～90% であると報告されていた (Sears, Stanton, & Danoff-Burg, 2003)。例えば、乳がんから回復した女性の 60% に自分の人生における優先順位のポジティブな変化がみられ (Taylor, Lichtman, & Wood, 1984)、また、睾丸がんから回復した男性の 76% に人生のすばらしさや意味を再評価するといった有益な変化が見られている (Rieker, Edbril, & Garnick., 1985)。有益性の発見は、困難の中にあってもポジティブな側面を見出し、肯定的な再評価を行うという対処法略のひとつであり (Tennen & Affleck, 2002)、がん直面した多くの人にみられる自然な過程であるとみなれている (Taylor et al., 1984)。つまり、ある人はがん直面することによって、他者からの支えを再認識し (有益性の発見)、相手への愛情を強く感じ、今存在することに対して喜びを感じ (肯定的再評価)、愛する人との時間を通して人生における優先順位が変化する (PTG) といったポジティブな変化を経験するのである (Sears et al., 2003)。

ネガティブな出来事を経験した後にポジティブな変化がみられることを論じる上で重要なのは、ポジティブな変化とネガティブな変化は同時に起こりうるということである。例えば、骨髄移植患者においては、身体的機能は不健康にもかかわらず、心理的状态には改善がみられた (Belec, 1992; Ferrell, Grant, Schmidt, Rhiner., Whitehead., Fonbuena, & Forman, 1992; Fromm, Andrykowski, & Hunt., 1996)。また、乳がん患者にはがん罹患していない健康な人よりも、自己の存在に関する、あるいは人間関係に関するポジティブな変化や (Andrykowski et al., 1993)、人生への感謝、実存的苦痛の緩和 (Cordova, Cunningham, Carlson, & Andrykowski, 2001) が多く認められている。これらの結果は、がんという生命を脅かす疾患に罹患し身体的にはネガティブに変化した患者が、同時に心理的にはポジティブに変化しうることを示している。したがって、患者のネガティブに変化した側面を改善するという観点とポジティブに変化した側面を増進するという観点をバランスよく取り入れた研究が必要であり (Folkman & Moskowitz, 2003)、さらに両側面の関連性を踏まえた上で、患者の認知的適応を捉えていくことが重要であるといえる。

2. がん患者にみられるポジティブな変化の予測因子

Calhoun & Tedeschi (1998) は、ポジティブな変化を予測する 4 要因として、個人の属性、出来事の性質、個人の認知的特徴、環境を挙げている。

個人の属性要因としては、がん患者の年齢と対処スタイルが報告されている。そして、患者が若いほど (Bower, Meyerowitz, Desmond, Leedham, Rowland, & Ganz, 2001)、また、多様な対処方略を持っているほど (Collons et al., 1990) ポジティブな変化を経験していたことが報告されている。がん患者以外を対象とした研究では、教育水準 (Updegraff, Taylor, Kemeny, & Wyatt, 2002)、過去のネガティブな出来事の実験 (Park et al., 1996)、性別や経済状況 (Calhoun & Tedeschi, 1998) が報告されている。

出来事の性質要因としては、出来事からの時間経過が報告されており、がんの診断を受けてからの時間が長いほどポジティブな変化が多くみられたという報告がある (Cordova et al.,

2001)。その一方で、時間経過とポジティブな変化とは関連が見られなかったという結果も多く報告されている (Bower et al., 2001; Park et al., 1996)。がん患者以外を対象とした研究では、出来事の頻度、持続性、予測可能性、曝される期間、同時に経験した人数などが予測因子として報告されている (Calhoun & Tedeschi, 1998)。

個人の認知的特徴要因としては、個人の性格傾向やストレスの認知的評価が報告されている。そして、楽観主義傾向が強いこと (Henderson, Davison, Pennebaker, & Gatchel, 2002)、侵入思考があること (Bower et al., 2001; Park et al., 1996)、がんに罹患したことを脅威と感じる度合い (Fromm et al., 1996) ががん患者のポジティブな変化と関連があることが示されている。また、がん患者以外を対象とした研究では、ストレスや有益性の発見に関する高いコントロール感 (Tennen, Affleck, Urrows, & Mendola, 1992) や、希望があること (Tennen & Affleck, 1999) が報告されている。

個人の環境要因としては、がん患者の家族の特性や、周囲からのサポートが報告されている。そして、情緒的ソーシャルサポートが多いこと (Mohr, Dick, Russo, Pinn, Boudewyn, Likosky, & Goodkin, 1999)、家族の凝集性、安定性が高いことが、ポジティブな変化と関連があることが報告されている (Calhoun & Tedeschi, 1998)。

3. がん患者にみられるポジティブな変化と心理的適応

がん患者にみられるポジティブな変化と心理的適応の関連に関しては、一定の見解は得られていない (Sears et al., 2003)。横断的デザインの研究において、患者のポジティブな変化と感情状態、Quality of Life とに関連があることを示す研究がある (Curbow, Somefield, Baker, Wingard, & Legro, 1993; Katz, Flasher, Cacciapaglia, & Nelson, 2001; Taylor et al., 1984) 一方で、心理的適応には関連がないことを示す研究が報告されている (Andrykowski et al., 1993; Cordova et al., 2001; Curbow et al., 1993)。結果の混乱の理由として、研究間で複数の異なった尺度が用いられていること、がんの部位によって抱えるストレスに違いがあること、そして横断的デザインでは因果関係を論じるに限界があることが挙げられる。また、縦断的デザインの研究においても、ポジティブな変化と、3ヵ月後・12ヵ月後の良い感情状態と主観的健康感とに関連があるとする研究 (Sears et al., 2003) と、身体的健康感には関連がないとする研究 (Fromm et al., 1996) が報告されており見解の一致には至っていない。今後、研究で扱っているポジティブな変化が患者のどのような側面における変化であるかを明確にし、かつ心理的適応への他の影響要因を考慮した研究を積み重ね、研究間で結果を比較、検討することで統一した知見を得ることが望まれる。

IV おわりに

本論では、がん罹患した経験によって生じたポジティブな変化を、患者の認知的適応過程であると捉えた研究を概観した。これらの知見から、がん患者のネガティブな側面を改善、あるいは緩和するだけでなく、ポジティブな側面を促進するという観点で研究を行うことは、がん患者が罹患後の生活に適応していくために有益であるといえよう。

しかし、がん患者の報告したポジティブな変化が、適応の過程としての状態なのか、適応した結果なのかといった問題、あるいは実際に生じた変化なのか、個人が主観的に感じたものなのかといった問題は、研究者間で一致しておらず議論の余地が残されている。また、ポジティブ

な変化が持続的なもので、心理的適応に継続的に効果があるのか否かも重要な論点である。今後、限界を踏まえつつ、ポジティブな変化の概念的整理を深め、どのような因子で予測され、どのような変数に影響を及ぼすのかを明らかにすることができれば、がん患者の認知的適応におけるポジティブな変化の位置づけを明確にすることができるであろう。Taylor (1983) の提唱した認知的適応理論では、人生における危機を経験した後に、その出来事に意味を見出す、コントロールすることを試みる、自尊心を回復するという過程を経て認知的適応に達するとされている。がん患者にとっての認知的適応とは何かといった根本的な問題は残されているが、がん患者のネガティブな側面だけでなくポジティブな側面に焦点を当てることは、今後増加するがんの長期生存者にとってさらに重要になるであろう。また、終末期のがん患者におけるポジティブな変化は、最期まで自分らしく生きることを願う患者にとって一縷の希望を支える糸口となる可能性があるため特に重要である。がん患者のポジティブな側面が生じる心理的メカニズムを明らかにすることが、がん患者が少しでも穏やかに過ごせる一助となることを望む。

引用文献

- Affleck, G., Tennen, H., & Gershman, K. 1985 Cognitive adaptations to high-risk infants: The search for mastery, meaning, and protection from future harm. *American Journal of Mental Deficiency*, 89, 652-656.
- Affleck, G., Tennen, H., Coroog, S., & Levine, S. 1987 Causal attribution, perceived benefits and morbidity after a heart attack: An 8-years study. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 55, 29-35.
- Andrykowski, M. A., Cordova, M. J., Studts, J. L., & Miller, T. 1998 Posttraumatic stress disorder after treatment for breast cancer: Prevalence of diagnosis and use of the PTSD Checklist (PCL-C) as a screening instrument. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 66, 586-590.
- Andrykowski, M. A., Brady, M., & Hunt, J. W. 1993 Positive psychosocial adjustment in potential bone marrow transplant recipients: Cancer as a psychosocial transition. *Psycho-Oncology*, 2, 261-276.
- Andrykowski, M. A., Curran, S., Studts, J. L., Cunningham, L., Carpenter, J. S., McGrath, P.C., et al. 1996 Psychosocial adjustment and quality of life in women with breast cancer and benign breast problems: A controlled comparison. *Journal of Clinical Epidemiology*, 49, 827-834.
- Belec, R. H. 1992 Quality of life: Perceptions of long-term survivors of bone marrow transplantation. *Oncology Nursing Forum*, 19, 31-37.
- Bower, J. E., Meyerowitz, B. E., Desmond, K. A., Leedham, B., Rowland, J. H., & Ganz, P. A. 2001 Perceptions of meaning and vulnerability following breast cancer. Paper presented at the annual meeting of the American Psychological Association, San Francisco, CA.
- Burt, M. R., & Katz, B. L. 1987 Dimensions of recovery from rape: Focus on growth outcomes. *Journal of Interpersonal Violence*, 2, 57-81.
- Calhoun, L. G. & Tedeschi, R.G. 1998 Posttraumatic growth: future directions. In

- Posttraumatic Growth: Positive Changes in the Aftermath of Crisis, Tedeschi, R.G., Park, C.L., Calhoun, L.G. (Eds). Lawrence Erlbaum Associates: Mahwah, NJ. 215-238.
- Caplan, G. 1964 Principles of preventive psychiatry. New York: Basic Books.
- Carpenter, J.S., Brockopp, D.Y., & Andrykowski, M.A.. 1999 Self-transformation as a factor in the self-esteem and well-being of breast cancer survivors. *Journal of Advanced Nursing*, 26, 1402-1411.
- Collins, R. L., Taylor, S.E., & Skokan, L. A. 1990 A better world or a shattered vision? Changes in perspectives following victimization. *Social Cognition*, 8, 263-285.
- Cordova, M.J., & Andrykowski, M. A. 1999 Posttraumatic growth following diagnosis and treatment of breast cancer. In Growth and Transformation Following Stressful Life Experiences, Park, C.L. (Chair). Symposium presented at the 107th meeting of the American Psychological Association: Boston, MA.
- Cordova, M.J., Cunningham, L.C., Carlson, C.R., & Andrykowski, M. 2001 Posttraumatic growth following breast cancer: a controlled comparison study. *Health Psychology*, 20: 176-185.
- Curbow, B., Somerfield, R., Baker, F., Wingard, J. R., & Legro, M. W. 1993 Personal changes, dispositional optimism, and psychological adjustment to bone marrow transplant. *Journal of Behavioral Medicine*, 16, 423-443.
- Dohrenwend, B. S. 1978 Social stress and community psychology. *American Journal of Community Psychology*, 6, 1-15.
- Ferrell, B., Grant, M., Schmidt, G. M., Rhiner, M., Whitehead, C., Fonbuena, P., & Forman, S. J. 1992 The meaning of quality of life for bone marrow transplant survivor. Part 1. The impact of bone marrow transplant on quality of life. *Cancer Nursing*, 15, 153-160.
- Folkman, S. 1997 Positive psychological states and coping with severe stress. *Social Science and Medicine*, 45, 1207-1221.
- Folkman, S., & Moskowitz, J. T. 2000 Stress, positive emotion, and coping. *Current Directions in Psychological Science*, 9, 115-118.
- Folkman, S., & Moskowitz, J. T. 2003 Positive Psychology From A Coping Perspective. *Psychological Inquiry*, 12, 121-125.
- Frankl, V. E. 1963 Logotherapy and the challenge of suffering. *Review of Existential Psychology and Psychiatry*, 1, 3-7.
- Fromm, K., Andrykowski, M.A., & Hunt, J. 1996 Positive and negative psychosocial sequelae of bone marrow transplantation: Implications for quality of life assessment. *Journal of Behavioral Medicine*, 19, 221-240.
- Fromm, E. 1947 Man for himself. New York: Holt, Rinehart & Winston.
- Henderson, B. N., Davison, K. P., Pennebaker, J. W., Gatchel, R. J., & Baum, A. 2002 Disease disclosure patterns among breast cancer patients. *Psychology and Health*, 17, 51-62.
- Joseph, S., Williams, R., & Yule, W. 1993 Changes in outlook following disaster: The

- preliminary development of a measure to assess positive and negative responses. *Journal of Traumatic Stress*, 6, 271-279.
- Katz, R. C., Flasher, L., Cacciapaglia, H., & Nelson, S. 2001 The psychosocial impact of cancer and lupus: A cross-validation study that extends the generality of "benefit-finding" in patients with chronic disease, *Journal of Behavioral Medicine*, 24, 561-571.
- Lazarus, R. S., & Folkman, S. 1984 Stress, appraisal, and coping. New York, Springer.
- Lehman, D. R., Davis, C. G., DeLongis, A., Wortman, C. B., Bluck, S., Mandel, D. R., & Ellard, J. H. 1993 Positive and negative life changes following bereavement and their relations to adjustment. *Journal of Social and Clinical Psychology*, 12, 90-112.
- Linley, P., & Joseph, S. 2004 Positive Change Following Trauma and Adversity: A Review. *Journal of Traumatic Stress*, 17, 11-21.
- McMillen, J.C. & Fisher R.H. 1998 The Perceived Benefit Scale: Measuring perceived positive life changes after negative events. *Social Work Research*, 22, 173-186.
- Mohr, D.C., Dick, L. P., Russo, D., Pinn, J., Boudewyn, A. C., Likosky, W., & Goodkin, D. E. 1999 The psychosocial impact of multiple sclerosis: Exploring the patient's perspective. *Health Psychology*, 18, 376-382.
- Moyer, A., & Salovey, P. 1996 Psychosocial sequelae of breast cancer and its treatment. *Annals of Behavioral Medicine*, 18, 110-125.
- 岡村 仁 2003 がん患者にみられる精神症状；サイコオンコロジー 現代のエスプリ 1, 18-28
- O'Leary, V. E., & Ickovics, J. R. 1995 Resilience and thriving in response to challenge: An opportunity for a paradigm shift in women's health. *Women's Health: Research on Gender, Behavior, and Policy*, 1, 121-142.
- Park, C.L., Cohen, L.H., & Murch, R.L. 1996 Assessment and prediction of stress-related growth. *Journal of Personality*, 64, 71-105.
- Rieker, P. P., Edbril, S. D., & Garnick, M.B. 1985 Curative testis cancer therapy: Psychosocial sequelae. *Journal of Clinical Oncology*, 3, 1117-1126.
- Schwartzberg, S.S. 1994 Vitality and growth in HIV-infected gay men. *Social Science and Medicine*, 38, 593-602.
- Sears, S.R., Stanton, A.L., & Danoff-Burg, S. 2003 The Yellow Brick Road and the Emerald City: Benefit Finding, Positive Reappraisal Coping, and Posttraumatic Growth in Women With Early-Stage Breast Cancer. *Health Psychology*, 22, 487-497.
- Shaefer, J. A., & Moos, R. H. 1992 Life Crises and Personal Growth. In Carpenter, B.N. (Ed.) *Personal Coping; Theory, Research, and Application* (pp.149-170) London, PRAEGER.
- Silver, R., Boon, C., & Stones, M. 1983 Searching for meanings in misfortune: Making sense of incest. *Journal of Social Issues*, 39, 83-102.
- Sledge, W. H., Boydston, J. A., & Rabe, A. J. 1980 Self-concept changes related to war captivity. *Archives of General Psychiatry*, 37, 430-443.
- Snyder, C. R., Harris, C., Anderson, J. R., Holleran, S. A., Irving, L. M., Sigmon, S. T., et

- al. 1991 The will and the ways: Development and validation of an individual-differences measure of hope. *Journal of Personality and Social Psychology*, 60, 570-585.
- Spiegel, D. 1997 Psychosocial aspects of breast cancer treatment. *Seminars in Oncology*, 24, 36-47.
- Taylor, S. E. 1983 Adjustment to threatening events: A theory of cognitive adaptation. *American Psychologist*, 38, 1161-1173.
- Taylor, E. 2000 Transformation of tragedy among women surviving breast cancer. *Oncology Nursing Forum*, 27, 781-788.
- Taylor, S. E., Lichtman, R., & Wood, J. 1984 Attributions, beliefs about control, and adjustment to breast cancer. *Journal of Personality and Social Psychology*, 46, 489-502.
- Taylor, S.E., Wood, J., & Lichtman, R. 1983 It could be worse: Selective evaluation as a response to victimization. *Journal of Personality and Social Issues*, 39, 19-40.
- Tedeschi, R.G., & Calhoun, L.G. 1995 *Trauma and Transformation: Growing in the Aftermath of Suffering*. Sage Publications Inc: Thousand Oaks, CA.
- Tedeschi, R.G. & Calhoun, L.G. 1996 The posttraumatic growth inventory: measuring the positive legacy of trauma. *Journal of Trauma and Stress*, 9, 455-471.
- Tedeschi, R. G., Park, C. L., & Calhoun, L. G. 1998 *Posttraumatic growth: Positive change in the aftermath of crisis*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Tempelaar, R., De Haes, J. C., De Ruiter, J. H., Bakker, D., Van Den Heuvel, W. J., & Van Nieuwenhuijzen, M. G. 1989 The social experiences of cancer patients under treatment: A comparative study. *Social Science and Medicine*, 29, 635-642.
- Tennen, H., & Affleck, G. 1999 Finding benefits in adversity. In C. R. Snyder (Eds.), *Coping: The psychology of what works* (pp. 279-304) . New York: Oxford University Press.
- Tennen, H., & Affleck, G. 2002 Benefit-finding and benefit-remaining. In C. R. Snyder & S. J. Lopez (Eds.) , *The handbook of positive psychology* (pp.584-594). New York: Oxford University Press.
- Tennen, H., Affleck, G., Urrows, S., Higgins, P., & Mendola, R. 1992 Perceiving control, construing benefits, and daily processes in rheumatoid arthritis. *Canadian Journal of Behavioral Science*, 24, 186-203.
- Thompson, T. 1975 *Lost*. New York: Dell.
- Updegraff, J. A., Taylor, S. E., Kemeny, M. E., & Wyatt, G. E. 2002 Positive and negative effects of HIV infection in women with low socioeconomic resources. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 28, 382-394.
- Veronen, L. J., & Kilpatrick, D. G. 1983 Rape: A precursor to change. In Callahan, E.J. & McCluskey, K.A. (Eds.) , *Life span developmental psychology: Non-normative events* (pp. 167-191) , San Diego, CA: Academic Press.
- Wallerstein, J. S. 1986 Women after divorce: Preliminary report from a ten-year follow up. *American Journal of Orthopsychiatry*, 56, 65-77.
- Weiss, T. 2004 Correlates of posttraumatic growth in husbands of breast cancer survivors. *Psycho-Oncology*. 13, 260-268.

- Weiss, T. 2002 Posttraumatic growth in women with breast cancer and their husbands: An intersubjective validation study. *Journal of Psychosocial Oncology*, 20, 65-80.
- Yalom, I. 1980 *Existential Therapy*. New York: Basic Books.